

令和4年度

第21回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和5年2月8日(水)
開会15時35分 閉会16時02分

場 所 教育委員室

令和4年度
第21回大分県教育委員会

【議 事】

- (1) 議 案
 - 第1号議案 大分県指定文化財の指定について

- (2) 報 告
 - ① 令和4年度1人1台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテストの開催について

 - ② 宇宙と科学の高校生シンポジウム（SSH）について

- (3) その他

【内 容】

1 出席者

委員	教育長	岡 本 天津男
委員	委員（教育長職務代理者）	林 浩 昭
委員		岩 崎 哲 朗
委員		高 橋 幹 雄
委員		鈴 木 恵 代
委員		岩 武 茂 代
事務局	理事兼教育次長	渡 辺 登
	教育次長	三 浦 一 雄
	教育次長	内 海 真理子
	参事監兼文化課長	森 健 治
	教育改革・企画課長	重 親 龍 志
	教育デジタル改革室長	神 崎 文 隆
	高校教育課長	山 田 誠 司
	教育改革・企画課 主幹（総括）	新 貝 隆
	教育改革・企画課 主査	得 丸 祐 輔
	教育改革・企画課 主任	安 長 理 生

2 傍聴人

1 名

開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(岡本教育長)

ただ今から、令和4年度第21回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、高橋委員にお願いします。

会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は15時55分を予定していますので、よろしくをお願いします。

【議案】

第1号議案 大分県指定文化財の指定について

(2課〔教育改革・企画課、文化課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第1号議案「大分県指定文化財の指定について」提案しますので、文化課長から説明をしてください。

(森参事監兼文化課長)

第1号議案「大分県指定文化財の指定について」説明します。
資料2ページをご覧ください。

大分県指定文化財の指定は、大分県文化財保護条例の規定により、大分県文化財保護審議会に諮問し、その答申に基づき、県教育委員会が指定することとなっております。

今年度は、宇佐市及び九重町から2件の文化財について指定の申請があり、令

和4年8月8日に開催された令和4年度第1回大分県文化財保護審議会に諮問しました。審議会委員による候補物件の調査を経て、令和4年12月27日に開催された令和4年度第2回大分県文化財保護審議会において協議を行い、申請のあった2件の文化財について、令和5年1月10日に県指定文化財に指定することが適当との答申をいただきました。

資料1ページの表に記載のとおり、有形文化財2件を大分県指定文化財に指定したいので提案いたします。

資料3ページ以降に沿って、2件の文化財について説明します。

まず、有形文化財（古文書）の「大楽寺文書」です。

宇佐市大字南宇佐にある大楽寺が所蔵する、鎌倉時代末から室町時代にかけての古文書17点となります。後醍醐天皇の綸旨をはじめ、南北朝時代の状況を伝える記録が残っています。当時の宇佐神宮や九州の政治状況を知ることができる貴重な文化財であり、県指定文化財の指定に値するとの評価をいただきました。

次に、有形文化財（考古資料）の「瑞花鴛鴦八稜鏡附白磁碗一点」です。

九重町が所蔵する鏡は、九重町釘野千軒遺跡の墓から出土しました。瑞花と鴛鴦などの文様の表現をはじめ、鏡の制作技術は非常に高く、京都で制作されたことが考えられます。このような鏡が個人の墓から出土したことは、全国的にも珍しく、また、附の白磁碗は平安時代後期のもので、鏡の制作年代を特定する根拠資料であり、白磁碗を含めて、県指定文化財の指定に値するとの評価をいただきました。

今回、審議をお願いする有形文化財2件の指定が承認されますと、県指定文化財の件数は、有形文化財が500件となり、県指定文化財の合計では756件となります。

説明は以上です。

（岡本教育長）

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。

ご質問・ご意見はありませんか。

（高橋委員）

「瑞花鴛鴦八稜鏡附白磁碗一点」が出土した際は、どのような状況でしたか。また、錆も少ないようですが、考えられる理由はありますか。

（櫻井参事（総括）〔文化課〕）

出土した際は、土に埋もれた状態でした。

また、錫が含まれており、現在でいう錫メッキが表面にされていたことで、錆が少ないことが理由としてあげられます。なお、この技術は当時としては大変先進的であり、京都で制作されたものが、九州に渡ってきたのではないかと審議会委員も考えているようです。

(高橋委員)

白磁碗は中国からの渡来品ですか。また、どのくらいの時期のものですか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

瑞花鴛鴦八稜鏡のみでは製作年代が不明でした。なお、白磁碗は太宰府を中心に多く出土されており、12世紀後半に製作されたものとされています。白磁碗をもとに瑞花鴛鴦八稜鏡の製作年代も推定することができることから、瑞花鴛鴦八稜鏡と白磁碗あわせて指定に値するとされています。

(林委員)

「瑞花鴛鴦八稜鏡附白磁碗一点」の発掘の経緯は、どのような状況ですか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

九重町役場の移転に伴う工事の一環で発掘調査された遺跡で出土しました。

(林委員)

大楽寺は、宇佐宮の大宮司をつとめた到津家の菩提寺ということですが、神職にも菩提寺があったということですか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

明治時代以前は、神と仏が一体であるという神仏習合という考え方でしたので、神職にも菩提寺がありました。

(岩崎委員)

資料3ページに「以上17点は中世の宇佐宮とそれに関係する寺院の活動、特に南北朝期の九州における動向を知る上で貴重な史料群」と記載されていますが、南北朝期における寺院の活動がわかるということですか。もしくは南北朝期における九州の動向がわかるということですか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

資料4ページに掲載している「後醍醐天皇綸旨」から南北朝期における寺院の活動がわかります。

また、「少貳頼澄施行状」から南北朝期の九州における動向がわかります。

そのことから「大楽寺文書」では南北朝期の寺院、そして社会の動きの両方がわかります。

(岩武委員)

「大楽寺文書」からは具体的にどのような社会の状況がわかりますか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

太宰府が南北朝期においても役所として機能していたことが分かります。

(岩武委員)

「瑞花鴛鴦八稜鏡附白磁碗一点」からわかる当時の九重町一帯はどのような状況だったのですか。

(櫻井参事(総括) [文化課])

九重町一帯の当時の歴史は、まだ詳しく解明できていません。今回の指定が、九重町一帯の歴史と文化を見つめ直す契機となり、再発見していくことにつながればと考えます。

(鈴木委員)

「瑞花鴛鴦八稜鏡附白磁碗一点」のように、発掘調査により貴重な文化財が発見されることから、発掘調査が大切であることがわかりました。

(岡本教育長)

それでは、第1号議案の承認についてお諮りします。承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案については、提案のとおり承認します。

【報 告】

① 令和4年度1人1台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテストの開催について

(1課1室〔教育改革・企画課、教育デジタル改革室〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第1号「令和4年度1人1台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテストの開催について」教育デジタル改革室長から説明をしてください。

(神崎教育デジタル改革室長)

令和4年度1人1台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテスト

の開催については、令和4年7月6日に開催された第7回教育委員会会議にて報告しましたが、コンテストの出場校が決定しましたので、再度報告いたします。

資料1 ページをご覧ください。

開催日時は、2月18日（土）13時30分から16時20分で、オンラインで配信します。

過去最高となる244チームの応募をいただきました。

予備審査の結果、小学生の部及び中学生の部各6チームが、日頃の思いや考え、学習の成果などを、端末を活用し、作成したスライドを用いて発表します。

昨年度のコンテストの様子をご覧ください。

【昨年度のコンテストの様子を動画視聴】

資料2 ページには、今年度の出場校及びプレゼンテーションのテーマを掲載しています。身近な地域課題に加え、授業や環境に関することなど、様々なテーマをプレゼンテーションしますので、教育委員の皆さまも是非ご視聴いただければと思います。

以上で報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

先ほど見た動画で流れた小学生の部の優勝校のプレゼンテーションについて、最後まで見てみたいと思いました。

(神崎教育デジタル改革室長)

昨年度のコンテストにおける優勝校のプレゼンテーション動画は、教育デジタル改革室のHPに全編を公開しておりますので、ご覧ください。

② 宇宙と科学の高校生シンポジウム（SSH）について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

次に、報告第2号「宇宙と科学の高校生シンポジウム（SSH）について」高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

報告第2号「宇宙と科学の高校生シンポジウム（SSH）」について報告します。

大分STEAM教育（次世代人材育成）推進事業では、先端科学技術分野で幅

広く活躍できる人材を育成するため、思考力、想像力を育成するSTEAM教育を推進しています。今年度の取組の総括として「宇宙と科学の高校生シンポジウム」が、1月28日に大分県教育センターにて、生徒97名を集めて実施されました。

資料2ページ及び3ページは、シンポジウムの案内となります。シンポジウムは、トークセッション、課題研究特別講座の最終発表会、特別講演及びワークショップの4つで構成されています。

資料4ページに、課題研究特別講座の最終発表の表彰一覧を載せております。課題研究特別講座の最終発表会では、課題研究に参加した生徒による成果発表を実施しました。なお、課題研究特別講座では、生徒40名が9チームに分かれ、令和4年7月から令和5年1月中旬まで学校の枠を越えて取り組みました。

最優秀書を受賞したのは、チームBの「ゴミのない大分の海岸を作り、大分の海をきれいにする」でした。拾ったゴミをリサイクルするという観点から、シーグラスを切り口とした視点で課題研究に取り組み、実際にシーグラスを活用し、試作品の作成を通じた提案が高く評価されました。各チームとも、独自の視点で大分県をとらえ、発見した課題をチームでアイデアを出し合いながら、自分たちなりの解決策を提案していました。

他にも「宇宙とSTEAM教育の未来」をテーマとしたトークセッションやNASA（アメリカ航空宇宙局）ジェット推進研究所の小野氏による特別講演、千葉工業大学の惑星探査研究センターや辻調理専門学校などの専門家協力によるワークショップを実施しました。NASA（アメリカ航空宇宙局）の職員と実際に言葉を交わすという貴重な経験や、ワークショップを通じて、学ぶことによる探究活動の楽しさを改めて体験するなど、参加した生徒にとっては非常に満足度の高いシンポジウムであったと考えています。

シンポジウム当日の様子を映像でまとめていますので、ご覧ください。

【シンポジウムの様子を動画視聴】

あわせて、シンポジウムに参加した生徒の感想もご覧ください。

【シンポジウムに参加した生徒の感想を動画視聴】

学校の枠を超え、分野横断的なSTEAM教育の学びを生徒は体験しました。今回の取組等を通じて、STEAM教育の推進や科学技術、宇宙への関心及び意欲の向上につなげることができたのではないかと考えています。今年度の取組を今後より発展的につなげていきたいと思っております。

以上で報告を終わります。

(岡本教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(高橋委員)

課題研究のチームはどのように決めたのですか。

(山田高校教育課長)

最初に生徒がそれぞれアイデアを出し、アイデアに近い生徒の中から4、5人ずつのグループを作りました。

(高橋委員)

グループのなかで、ディスカッションをし、方向性を決め、取組を進めたということですか。

(山田高校教育課長)

そのとおりです。

今回の課題研究には、大分工業高校の生徒が10名ほど参加しており、普通科高校と専門高校のバランスがとれたグループの構成になっていたと思います。

(鈴木委員)

最優秀賞を受賞したチームの在籍校は、JR豊肥本線沿いにある学校ばかりで非常に嬉しく思います。今回の表彰を契機に物事に取り組むことの大事さを、周りの生徒が感じてもらえたらと思います。また、より多くの生徒が参加し、課題解決に取り組むという前向きな学習もできるのではないかなと思います。

(岩武委員)

今回のシンポジウムで必要とされる能力は、今後の社会で必要とされているものだと思うので、非常に良い取組だと思います。

課題研究の中身を詳しく知りたいと思うので、どのような発表内容なのかがわかる資料をいただけませんか。

(山田高校教育課長)

後ほど資料を提供させていただきます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

(岡本教育長)

それでは、これで令和4年度第21回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。